

令和8年度 学校経営方針

江戸川区立鹿本中学校
校長 松山 浩行

標記について、人間尊重の精神に基づき、学校の教育活動全体を通じて、生徒が意欲をもって主体的に学び、規律のある学校生活を送ることができることを目的とした組織的な学校経営を以下のように推進する。

1 教育目標

- ・自律（自らを律し、主体的に活躍できる生徒）
- ・敬愛（お互いを敬い、協働できる生徒）
- ・探求（自ら学びに取り組める生徒）

スローガン 「自他を認め合い、主体的に学習し、行動できる鹿中生」
(生徒の自己肯定感を高め、思いやりのある学習集団を育成)

2 目指す学校

生徒が生き生きとして、教師と生徒また、生徒同士が共に成長を実感できる学校づくりのため、次の基本理念のもと、教育環境を充実させる。

- ① 学びに重点を置き、ICT機器を活用し、基礎基本の定着を図れる学校
- ② 生徒の長所を見出し、きめ細かい指導に心がけ、生徒一人一人の個性や能力を育む学校
- ③ 基本的生活習慣を身に付けさせ、社会に通用する規律を重んじる学校
- ④ 時と場所を考え、正しいあいさつが、あたりまえに交わされる学校
- ⑤ 自他の意見に耳を傾け、他を尊重しながら共に未来を切り拓く担い手が育成できる学校
- ⑥ 保護者・地域と協働し、地域に貢献する学校

3 学校経営の基本的な考え方

- 生徒個々の学習に目を向け、個々に応じた学習指導、基礎基本の定着を図る
- 生徒を共に生きる大切な人として認める
- 生徒の個性を見だし、生徒個々の長所を伸ばす
- 教師の授業力を高め、学びの楽しさを身につける
- 家庭や地域に貢献する

4 教育目標の達成に向けて

(1) 学習指導

- ① 年3回学習コンテストを実施し、基礎・基本の定着を進める。
- ② 授業時数の確保、チャイムと同時に始まる授業、分かりやすく、ICT機器及びデジタル教科書等を活用し、楽しめる教科指導を実践し、学ぼうとする意欲、さらに学力の向上に努める。
- ③ 授業規律を徹底するとともに、生徒の主体的な取組を生かした授業を実施し、学習習慣を定着させる。
- ④ 継続的な補充学習及び長期休業日や定期考査や学習コンテスト前の補習を実施して、生徒の学力に応じたきめ細かな指導を推進し、学力の定着に努める。
- ⑤ 生徒自らが家庭学習に取り組めるように、各教科の学習方法をまとめた手引きを生徒・保護者に示し、ミライシート等も活用しながら授業などを通して個々の課題を伝え、生活リズムを整え、家庭学習の習慣化を目指す。
- ⑥ 学習内容に応じた指導方法を展開し、生徒が他の意見を聞き入れながら、主体的に自らの意見を発言できる授業を実践する。
- ⑦ 教員相互の授業観察及び生徒・保護者による授業評価を活用して、授業改善を図る。
- ⑧ 数学においては少人数習熟度別学習指導や単元別検定等を実施し、数学・英語においては放課後学習教室を有効に活用するなど、基礎学力の定着及び学力の向上を図る。
- ⑨ 1年生に向けては、スモールステップで小テストなどを実施し、中学校での学習環境に慣れる工夫を行う。
- ⑩ 全校体制で「躊躇なく英語を話す生徒の育成」を図るため、「English Day」を設定する。

(2) 生活指導

- ① 自他を尊重し、思いやりのある健全な心を育成するとともに命の大切さを理解させる。
- ② 教育相談機能を充実させ、特別支援コーディネーター・不登校対応コーディネーターを中心とした校内組織を核に全教職員がスクールカウンセラー・臨床心理士・スクールソーシャルワーカーと連携し、不登校やいじめ等の課題解決や校内別室指導の充実を図っていく。
- ③ L-Gate「毎日の記録」の活用や、生徒と教師が解決志向型アプローチによる二者面談を実施して、生徒の興味・関心や悩みなどを引き出し、生徒自身がよりよい学校生活を築くための機会を設ける。
- ④ セーフティ教室を通して、自己の安全管理等に対する意識を向上させる。
- ⑤ いじめ防止対策委員会を中心として、いじめを絶対に許さない意識を定着させる。
- ⑥ 「SNS鹿中ルール」「鹿中タブレットルール」を徹底し、生徒自ら情報モラルを意識させ、トラブルの未然防止を図る。

(3) 進路指導

- ① 3年間を見据えた指導計画を作成し、学年に応じた指導を推進する。
- ② 生徒が、自分の能力や適性を正しく知ることができる機会を適宜提供し、キャリアプラン作成の一助とする。
- ③ キャリア教育の充実を図り、進路相談等を実施し、生徒の個性や適性及び希望に応じた指導を展開し、自身による進路選択をできるように努める。また、キャリアパスポートを適宜活用し、自身を振り返れるようにする。
- ④ 各自の進路に関する情報の収集に努めさせ、自主的な活動を促して自己実現を図れるように指導を加える。
- ⑤ 職業体験を通して就労意識を高め、職業感の育成に努める。

(4) 特別活動

- ① 学校行事、生徒会活動、学級活動、部活動等への参加意欲を高め、自主的・自律的な活動を促し、集団生活における自己の確立と協調の精神を育てる。
- ② ボランティア活動に積極的な参加を促し、社会に貢献する態度を育てる。
- ③ 清掃活動や緑化活動を重視して、環境美化に努めるとともに物を大切にすることを育てる。
- ④ 全ての特別活動を通して、主体的な活動場面を意図的に増やし、生徒の自己肯定感を高める。

(5) 教育環境の整備

- ① 予算は計画的に執行して無駄を省き、物品を適正に管理する。
- ② ホームページの充実を努め、校内の情報を積極的に公開する。
- ③ 授業や様々な活動に、集中できる学習環境を整備する。
- ④ 施設、設備の充実と改善を図り、安全で安心して学べる環境を整える。
- ⑤ 地域の教育力を積極的に活用する。
- ⑥ 体育の授業で单元ごとに必要な補強運動を取り入れるなど、体力向上の一助とする。

(6) 特色ある教育の推進と充実

- ① インクルーシブ教育の推進を図るため、三つの学級（通常・特別支援・難聴）が連携し、それぞれの特性を生かした教育活動の充実を図る。
- ② 食育・健康体力向上教育を充実させ、生徒の健康・体力と生活習慣についての意識を高める。
- ③ 学校図書館としての環境を整備するとともに、学級文庫も充実させ、朝読書や読書科の時間等、読書活動を通して豊かな人間性を培う。
- ④ 基礎学力の定着のために国語・数学・英語の学習コンテストを実施するとともに、コンテスト前に朝学習を行う。
- ⑤ 地域の教育力を活用して学校応援団を組織し、教育活動の充実を図る。

(7) 教職員の取組等

- ① 新たな課題解決や新しい取組にあたっては、全教職員で対応し、共通実践を推進する。
- ② 全員が研究授業や公開授業等を実施して授業の工夫・改善に努める。
- ③ 各学年・分掌間の連携を密にして組織力を高め、課題の共有と協働に努める。
- ④ 学年、校務分掌組織を活用してOJTの組織を編成し、人材育成を充実する。また、各学年・分掌の主任が主導して、各々の職務内容を学び合い、専門性の向上に努める。
- ⑤ 各研修会等への積極的な参加や校内研修を充実させ、指導力向上を図る。
- ⑥ 互いに授業を参観し合う授業研究を推進し、授業のポイントを明確にし、観察者に成果と課題を説明できるようにする。また、観察者からの意見も聞き授業力向上に生かす。
- ⑦ 特別支援委員会の活性化を推進し、委員会情報を全教職員で共有し、指導に生かす。
- ⑧ アレルギー疾患対応については、養護教諭、栄養士を中心として、校内及び家庭との連携を密にして、食物アレルギーに関する全ての事故の防止及び事故に備えた対応策の周知徹底に努める。
- ⑨ 各職員が法令を遵守し、情報の適切な管理及び体罰を許さない姿勢等、サービスの厳正に努める。
- ⑩ 分掌内の内容を吟味し、分担の再構成や精選を図る。
- ⑪ LGB T Qを考慮しながら、いままで活用してきた様々な規則などを適宜見直していく。